

[パネルセッション]

JICA の教育協力の展望 - ポスト 2015 を見据えて -

石原 伸一

国際協力機構 (JICA) 人間開発部次長

JICA は、2010 年 9 月に作成した「JICA の教育分野の協力-現在と未来-」(以下、ポジションペーパー) をもとに、2015 年の「万人のための教育 (EFA)」/ミレニアム開発目標 (MDGs) の達成に向けて取り組んできた。EFA/ MDGs 目標達成年の 2015 年をむかえ、JICA では、これまでの教育協力の取り組みを振り返りつつ、ポスト 2015 の議論を踏まえて、今後、5 年程度の教育協力方針となる次期ポジションペーパーの作成に取り組んでいる。本発表では、ポジションペーパーの作成の途中段階における議論を共有することで、ポスト 2015 の教育協力の議論に貢献し、立場を超えて、教育の取り組みの強化につながっていくことを期待したい。発表要旨は以下の通り。

基礎教育¹ (Basic Education)

1. EFA/MDGs の残された主な課題

初等教育のアクセスの改善は見られたが、不利な状況にある子ども (ジェンダー、地域間格差、障害、紛争影響等) の就学は依然として課題。また、初等教育の拡充に伴い需要が増す中等教育へのアクセス、質も喫緊の課題。途上国の児童の約 3 割が小学校中退し、学校の就学の有無に関わらず、世界の初等学齢児童の 2 億 5,000 万人の子どもが基礎的な読み書き計算の能力が習得できておらず、学習の危機に面している。

2. これまでの JICA の主な取り組み

初等教育のアクセス向上

1990 年以降 50 か国、10,085 校以上 72,881 教室の小学校建設を実施。1 教室当たり 50 人で試算すると、年間 364 万人以上の児童に裨益。

(2) 初等教育の質の向上

理数科教育：1994 年以降、41 か国で技術協力事業を実施。

授業研究：1998 年以降、24 か国で授業研究を取り入れた技術協力事業を実施。

学校運営改善：1999 年以降、16 か国で技術協力事業を実施。

(3) ノンフォーマル教育・識字教育

アフガニスタン、パキスタンでノンフォーマル教育・識字教育を実施。

パキスタンの裨益人数の約 52 万人の内、約 8 割が女子、女性 (2014 年 1 月時点)。

3. 現状分析と今後の基礎教育協力の展開

JICA の主な支援対象国 (33 か国の内、データ入手可能な 25 か国) を初等教育の就学と修了 (最終学年残存率) の状況を分析した結果、大別して以下の 3 グループに分かれる。

就学も修了も依然として課題のあるグループ

就学は一定レベルに達成しているものの、修了に課題のあるグループ

就学も修了も達成しつつあるが、ラスト 5-10%の達成や国内格差を抱えているグループ

¹ JICA ポジションペーパーでは、基礎教育は個々人が生きるために必要な基礎的な知識・技能を提供する教育であり、就学前教育、初等・中等教育、ノンフォーマル教育を含む。

上記の達成状況および各国の教育行財政の状況を踏まえつつ、以下のアプローチを基本に事業を展開していく。また、初等教育の就学率向上の結果、中等教育への需要が急速に高まっており、中等教育の量的拡充、質的改善が大きな課題。ポスト 2015 において質の高い中等教育の完全普及が議論されていることも踏まえ、初等教育同様、中等教育の事業展開に取り組む。

教育サービスの量的拡大へのアプローチ（主として上記①）

初中等教育の就学率に課題のある国については、教育サービスの拡充のため、学習環境改善（小中学校建設）を継続的に実施する。

学びの改善へ向けた統合的アプローチ（主として上記①及び②）

これまでの授業改善中心のアプローチから、「カリキュラム・教科書→授業→学習者の学び→学力試験」の一貫性・サイクルの強化を図るアプローチへと発展させる。各国の状況を的確に診断のうえ、次の三つの処方箋（①理数科教育、②授業研究、③学校運営改善）を軸とし、教育人材育成、教育制度改善、学習環境改善を効果的・選択的に組み合わせる統合的アプローチを展開する。

公平性・包摂性を重視したアプローチ（主として上記③、但し全グループで取組が必要）

公平性・包摂性を重視した事業（例：ノンフォーマル教育・識字教育、地域間格差、障害児教育）を展開する。この際、他セクターとの連携を進めることで、事業の成果の最大化を目指す。

基礎教育を越えて（Beyond Basic Education）

1. ポスト 2015 と JICA の役割

ポスト 2015 のキーワードは、Open Working Group の Sustainable Development Goals で提案されている通り、「包摂的で公平な質の高い教育」（Inclusive and Equitable Quality Education）、「生涯を通じての学び」（Lifelong Learning）である。このことは、基礎教育を越えて、生涯を通じた学びとしての捉えなおしが必要であると捉えている。

国際協力は、先進国、途上国の垂直的な関係から、国境、地域を超えた水平的な関係性へと移行しており、そうした文脈の中で日本の教育協力のプレーヤーは学習産業をはじめ多様化している。JICA は多様化するプレーヤーを教育協力の展開へとつなげていく触媒者、ソリューションプロデューサーとしての役割を果たしていくことが重要になってきている。

2. 基礎教育、技術教育・職業訓練、高等教育を関連づけた戦略的な展開へ

現ポジションペーパーでは、サブセクター毎（基礎教育、高等教育、技術教育・職業訓練）に重点分野をとりまとめており、生涯を通じた学びの視点から、サブセクター間を包括的に捉えたアプローチは課題。JICA の組織ビジョンの Inclusive and Dynamic Development のもと、生涯の学びの観点から、基礎教育、技術教育・職業訓練、高等教育を関連づけた戦略的な展開へ取り組んでいく。

3. グローバルな学び合い

基礎教育、技術教育・職業訓練、高等教育分野の教育協力を通じて蓄積しつつある実践知をリージョナル、グローバルに学び合える協力を促進していく。事業の質の向上、グローバルに知を発信していくため、実践と研究のリンクを強化していく。

4. 教育を越えて（Beyond Education）

教育と他セクター間の相乗効果を目指した取り組み促進し、事業成果の最大化を図る。他の開発目標・セクターへの貢献も目指す。



第12回国際教育協力日本フォーラム

JICAの教育協力の展望

- ポスト2015を見据えて -

石原伸一
人間開発部次長
独立行政法人 国際協力機構 (JICA)
2015年2月5日

I. 基礎教育*(Basic Education)

1. EFA/MDGsの残された課題
2. これまでの主な取り組み
3. 現状分析と今後の協力の展開

II. 基礎教育を越えて(Beyond Basic Education)

1. ポスト2015とJICAの役割
2. サブセクター間を包括的に捉えた戦略的な事業展開
3. グローバルな学び合いの促進
4. 教育を越えて(Beyond Education)

* 就学前教育、初等・中等教育、ノンフォーマル教育を含む(JICAの教育分野の協力,2010年)



I-1 EFA/MDGsの残された主な課題

初等教育完全普及

途上国の初等教育の純就学率は改善
83% (2000年) → 90% (2012年)

依然として5800万人 (2012年) が不就学

- 不利な状況にある子ども (ジェンダー、障害、地域間格差、紛争影響等) の就学は依然として課題。
- 初等教育の拡充に伴い需要が増す中等教育へのアクセス、質も喫緊の課題。

ジェンダー平等

初等・中等教育の途上国全体平均でジェンダー平等を達成。ただし、国・地域間で差があり、多くの国でジェンダー格差が存在。

教育の質

小学校を修了できない子ども
途上国の約3割

基礎的な学力を身につけていない子ども
世界の約4割 2億5000万人
※世界の小学校学齢人口：6億5000万人

I-2 これまでのJICAの主な取り組み

1. 初等教育のアクセスの向上

- 1990年以降50か国、10,085校以上72,881教室の小学校建設
≡年間364万人以上の児童に裨益（*1教室50人で試算）

2. 初等教育の質の向上

(1) 理数科教育

- 1994年以降、41か国で理数科教育分野の技術協力を実施
- アフリカでは理数科教育協力を27カ国へ広域展開
- 中米4カ国で算数教科書、教師用指導書を開発、全国普及

(2) 授業研究

- 1998年以降、24カ国で授業研究を取り入れた技術協力事業を実施

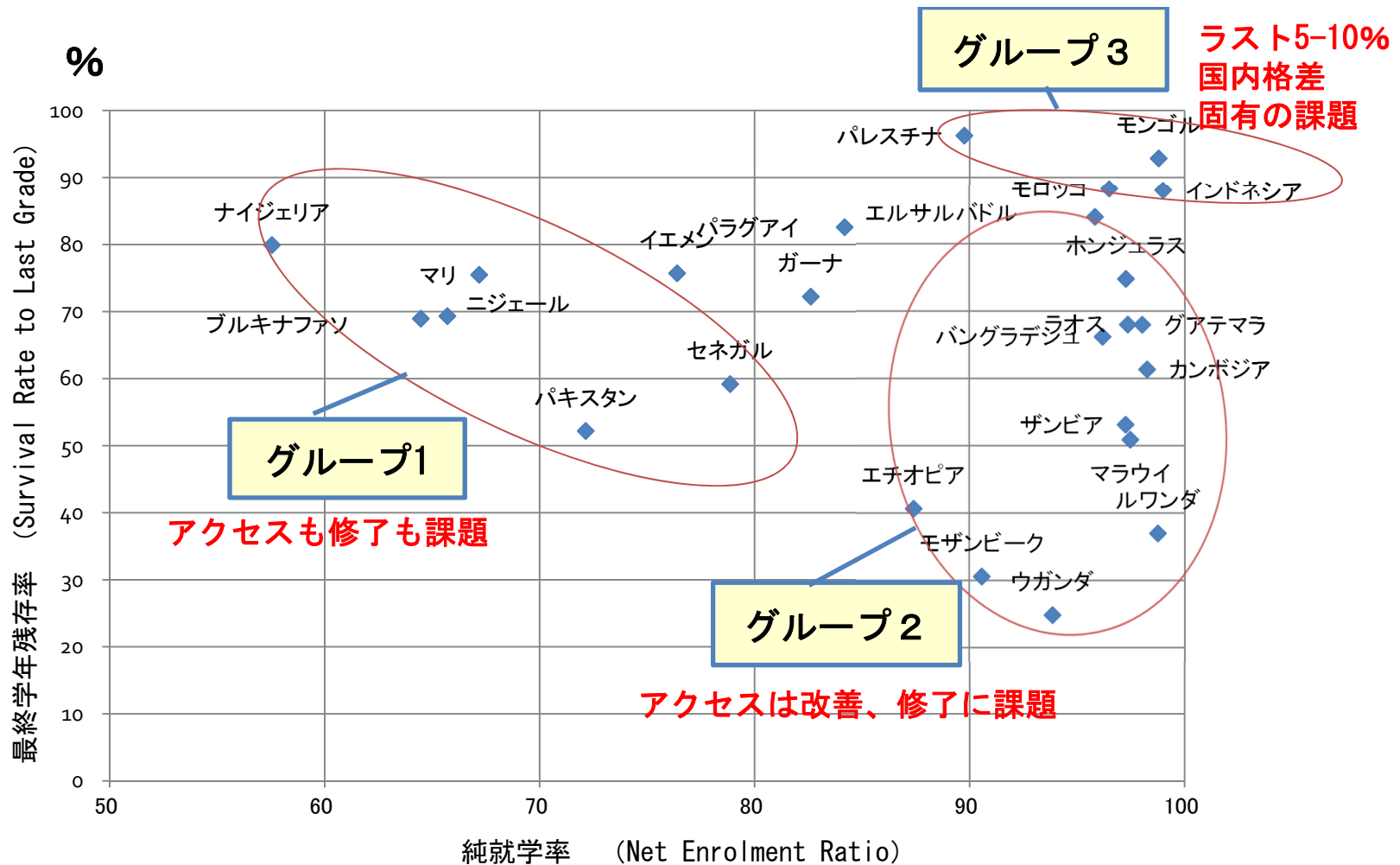
(3) 学校運営改善

- 1999年以降、16か国で技術協力事業を実施

3. ノンフォーマル教育・識字教育

- アフガニスタン、パキスタンで技術協力事業を実施
- パキスタンの裨益人数の約52万人の内、約8割が女子・女性
(2014年1月時点)

I-3 初等教育の就学と修了の分析 (JICAの基礎教育分野の主な支援対象国)



(出所：UNESCO UIS DataをもとにJICA人間開発部で作成。JICAの基礎教育分野の主な支援対象33か国中、データ入手可能な25か国にて分析)

1. 教育サービスの量的拡大

(主にグループ①)

学習環境改善（小中学校建設）の支援を継続

2. 学びの改善へ向けた統合的アプローチ

(主にグループ①、②)

* 次スライド参照

3. 公平性・包摂性を重視した取り組み

(主にグループ③、但し、全てのグループで配慮)

- ノンフォーマル教育・識字教育（パキスタン）
- 地域間格差（モロッコ）
- 障害児教育（モンゴル予定、アフガニスタン）

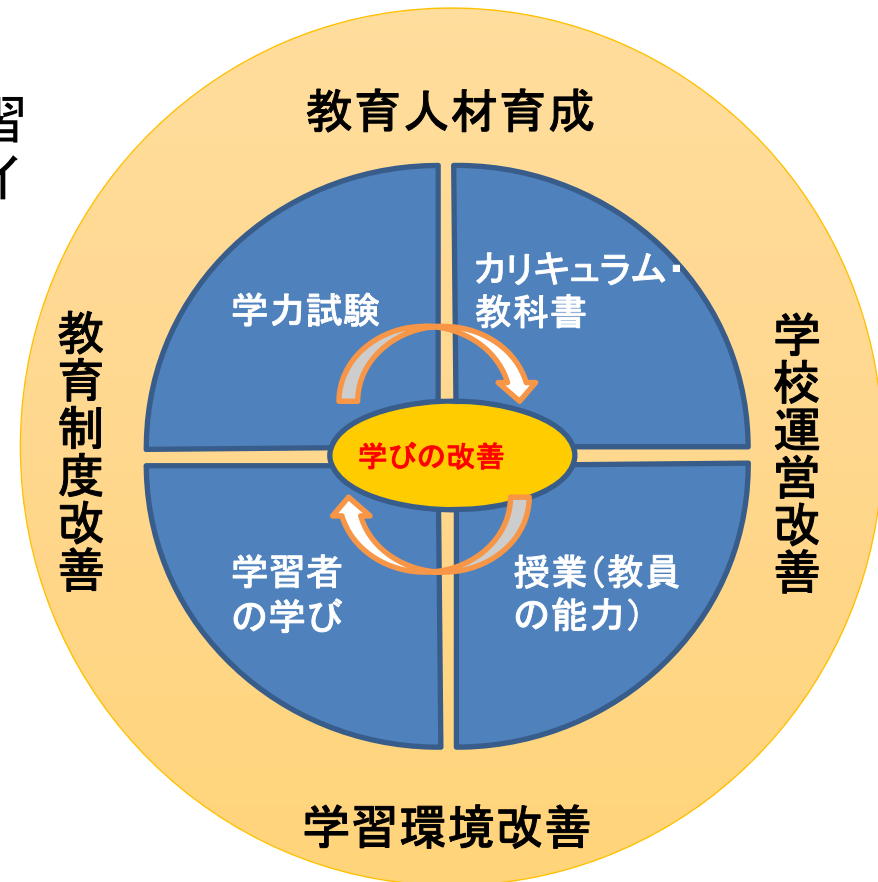
1. 学びの改善サイクルの強化

授業改善中心のアプローチから、「カリキュラム・教科書→授業→学習者の学び→学力試験」の一貫性・サイクルの強化を図るアプローチへ

2. 各国の状況を的確に診断のうえ、以下三つの処方箋を軸とし、

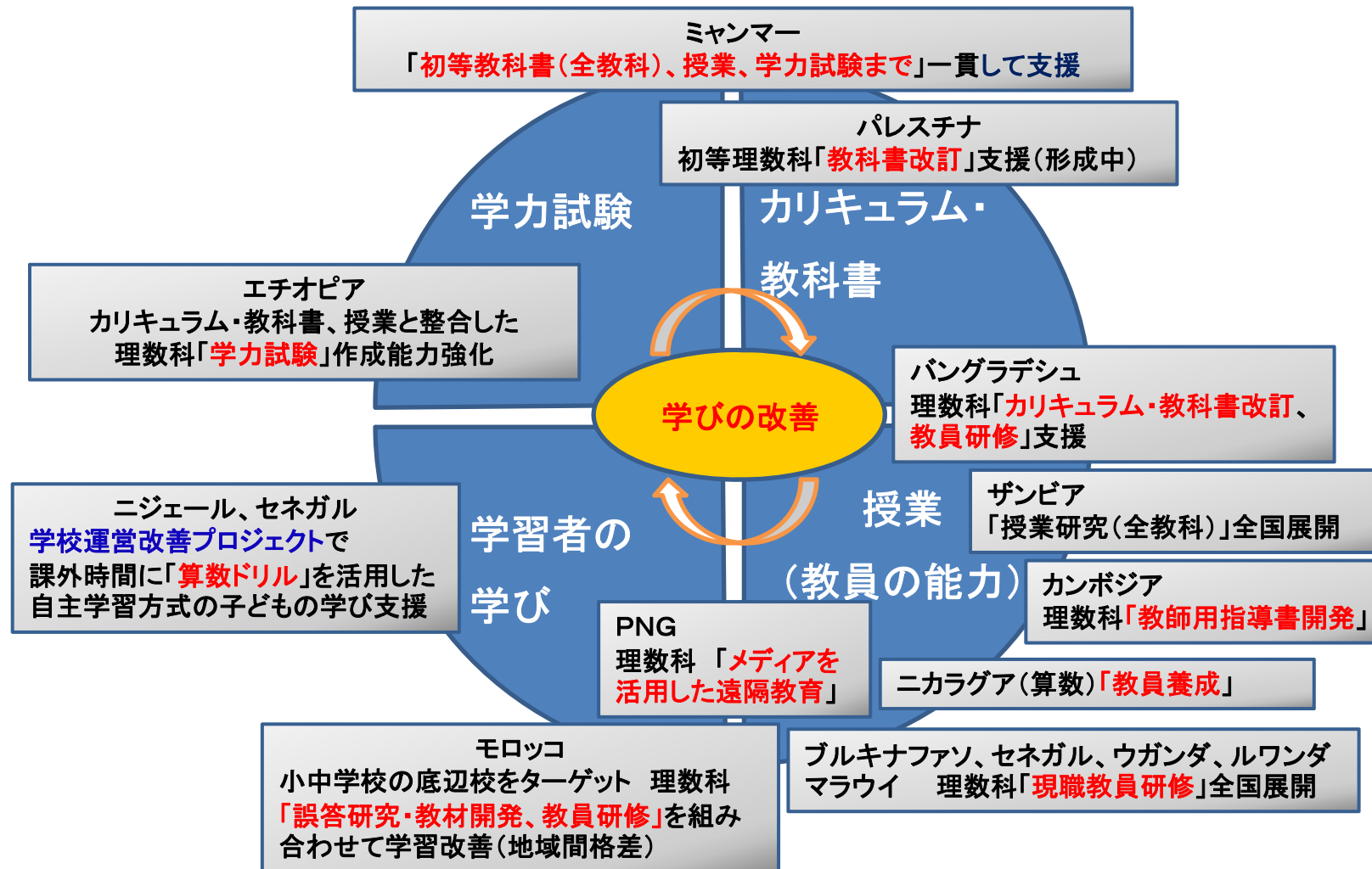
- ①理数科教育
- ②授業研究
- ③学校運営改善

教育人材育成、教育制度改善、学習環境改善を効果的・選択的に組み合わせて統合的アプローチを展開





I-3 「学びの改善サイクル」のマッピング事例





II-1 基礎教育を越えて (Beyond Basic Education) ポスト2015とJICAの役割

<ポスト2015のキーワード>

- 包摂的で公平な質の高い教育
(Inclusive and Equitable Quality Education)
- 生涯を通じての学び (Life-long Learning)

*Sustainable Development Goals (Open Working
Group proposal) Goal 4:*

*‘Ensure inclusive and equitable quality education
and promote lifelong learning opportunities for all’*

先進国、途上国の垂直的な関係から、
国境、地域を超えた水平的な関係性へと移行

- ✓ 高等教育：「**連携**」と「**競争**」の文脈で日本の人材育成も含めて捉えていく必要性
- ✓ 技術教育・職業訓練：「**日系企業**」との**連携**、企業内研修等の知見も活用を視野に入れた人材育成のニーズが拡大
- ✓ 初等・中等教育：日本の少子化により、「**学習産業**」の**海外展開への関心が高まり**、国際協力への参入が増加

→ JICAは多様化するプレーヤーを教育協力の展開へとつなげていく触媒者、ソリューションプロデューサーとしての役割へ

基礎教育

(初等・中等教育)

教員研修/
理数科教育

学校運営

学校建設

高等教育

各地域・国の
拠点大学の拡充
(主に工学系)

大学間の研究
交流ネットワーク
(主に工学系)

技術教育・ 職業訓練

拠点技術専門学校、
職業訓練校の拡充

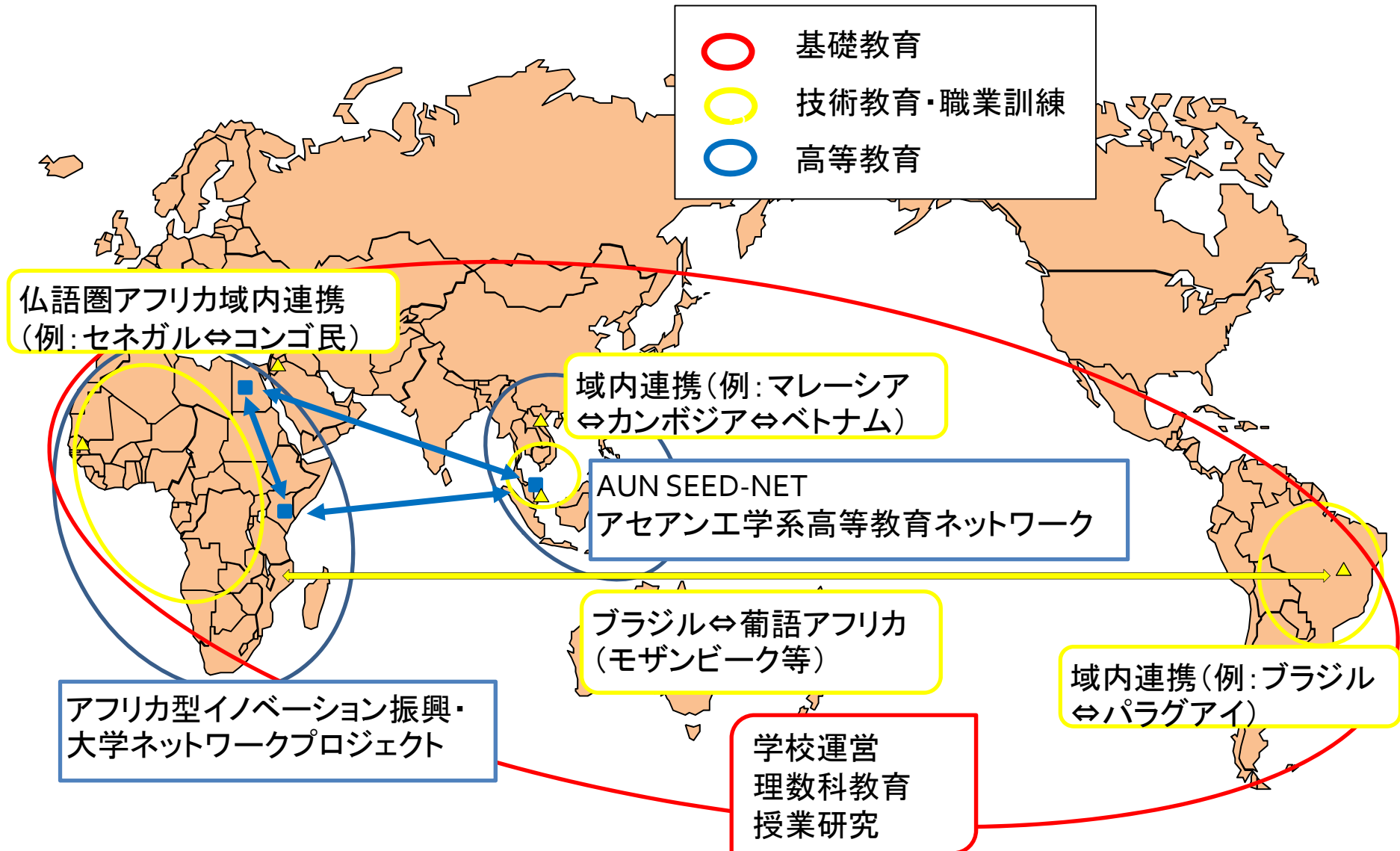
紛争後の国におけ
る生計向上に直結
する職業訓練



II-2 基礎教育、技術教育・職業訓練、高等教育を 関連づけた戦略的な展開へ

<i>Inclusive Development</i>	<i>Dynamic Development</i>	
平和、公平性・包摂性	産業人材育成	科学技術
<p>高等教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフガニスタン中核人材育成（日本の修士課程：インフラ、農業農村開発）500人（2011 - 2016年） <p>技術教育・職業訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的弱者（女性、障害者、除隊兵士）の生計向上に資する職業訓練（スーダン 他） <p>基礎教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノンフォーマル教育・識字教育（パキスタン、アフガニスタン） ・障害児教育（モンゴル予定、アフガニスタン） 	<p>高等教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカの若者のための産業人材育成「日本の修士課程&インターンシップ」54か国900人（2014 - 2017年） ・工学系の拠点大学の教育・研究能力の強化を通じた産業人材育成（インド、インドネシア、ミャンマー、モンゴル） <p>技術教育・職業訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業界のニーズに対応した仕事につながる職業訓練（カンボジア、セネガル、パラグアイ 他） 	<p>高等教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセアン、日本の工学系大学による科学技術振興ネットワーク（修士・博士） ・アフリカの科学技術・イノベーションのネットワーク（修士・博士） ・日本型の工学教育を導入し、科学技術分野の教育・研究能力強化（エジプト、マレーシア）
<p>中等教育 理数科教育</p>		
<p>社会・経済開発の基盤</p>		
<p>高等教育</p> <p>人材育成奨学計画（日本の修士課程 社会科学系中心 14か国）約3,000人（2000-2013年）</p> <p>初等教育、前期中等教育</p> <p>学びの改善に向けた統合的アプローチ</p>		

II-3 グローバルな学び合いの促進



II-3 グローバルな学び合い<事例> 授業研究



2014年6月25-26日
教育のためのグローバル・パートナーシップ増資会合
ベルギーにて
サイドイベントにてセネガルのカウンターパートが授業研究の取り組みを発信

2014年8月-9月
課題別研修@日本 & インドネシア
「アジア地域授業研究による教育の質の向上」
日本・インドネシアを拠点にアジア6か国が経験共有
<参加国> モンゴル、カンボジア、ミャンマー、ラオス、
バングラデシュ、ネパール

ザンビアを拠点にアフリカ9か国が技術交流
<参加国>
ナミビア、ブルンジ、ナイジェリア、ルワンダ、ウガンダ、
ケニア、マラウイ、スワジランド、セネガル

2014年11月25-28日
世界授業研究学会 @インドネシア
JICAセッション: ザンビア、バングラデシュ、ニカラグア、
インドネシアのカウンターパートが発表



II-3 グローバルな学び合いの促進 実践と研究のリンクの強化

国内外の大学、研究所との連携 最近の事例

- 「障害と教育」研究（JICA研究所）
- インパクト評価 学校運営改善、理数科教育
- 事例研究 ザンビアの授業研究のスケールアップ（ブルッキングス研究所）
- 国際会議での発信（例：Global EFA Meeting, Global Partnership for Education, Education for Sustainable Development）
- 国際学会での発信（例：International The World Association of Lesson Studies (WALS), International Conference, Bandung, Indonesia, Nov. 25-28, 2014）



II-4 教育を越えて (Beyond Education)

教育と他セクター間の相乗効果を目指した取り組み促進し、事業成果の最大化を図る。他の開発目標・セクターへの貢献も。

(例)

